

すべての児童が自分の考えをもち、学び合うことができる授業をめざして ～算数科の授業における主体的・協働的な学びを実現するための手立て～

横浜国立大学教職大学院 教育学研究科高度教職実践専攻
本庄 優生

1. はじめに

これからの変化の激しい社会を生きるには、社会参画ができる汎用的な能力の育成が必要だといわれている。

A小学校では「自分の考えをもち、社会参画しようとする子どもの育成」をめざして、授業研究に取り組んできた。「社会参画しようとする子ども」の姿を汎用的な能力(横断的な視点に立った)の育成を視野に、具体化して研究している。低学年では国語科、中・高学年では社会科を中心に研究を行っている。国語科では話型を整え、児童同士で話し合う授業を行い、社会科では児童の思考の流れに沿った資料を提示し、話し合いを大切に授業を進めている。また、両教科では児童の振り返りの時間を設定している。そのため国語科・社会科においては自分の考えをもち、学び合っている授業が実現されており、汎用的な能力の育成がめざしているが、他教科での取り組みはされていない。

算数科においても自分の考えをもち、学び合うことができる授業を目指し、汎用的な能力の育成をしたいと研究に取り組んだ。

2. 研究の目的

答えが決まっていると考えがちな算数科でも、自分の考えをもち協働的に学ぶことは重要である。そのため算数科においてどの子も自分の考えをもち、お互いに考えを交流し協働的に学び合う授業の実現をめざしたい。子どもが自信をもって自分の考えを言い合いながら、生き生きと主体的に学ぶためには何を工夫していく必要があるのかを明らかにしたい。

3. 研究方法および評価

研究の目的を達成するために以下の4点に取り組んだ。

- (1) 実態把握と意識調査をするため授業前アンケートと授業前テストを行う。
- (2) 授業・単元を通して付けたい力を明確にする。
- (3) 「Ⅰ問題の工夫」「Ⅱ学び合いの場の設定」「Ⅲ振り返りの時間の確保」を取り入れた授業を行う。
・A小学校の先行研究より、{資料活用}から「Ⅰ問

題の工夫」を、実際にされていて効果的だと考えた「Ⅱ学び合いの場の設定」を、{振り返り}から「Ⅲ振り返りの時間の確保」を取り入れた。

(4) 前時で行った「Ⅲ振り返り」を次の授業に生かす。

そしてこの4点を基に課題の解決をPDCAサイクルで研究していく。循環型で考えることにより常に改善しながら学ぶことができると考える。

評価については以下の4点でみとった。

(1) 授業記録 (2) 子どもの振り返り (3) 授業後テスト (4) 授業後アンケート

4. 結果と考察

(1) 生活の中の問題や前時とのつながりを意識することで興味をもち、意欲的に学習に取り組む姿が見られた。答えではなく考えを求める問題を出し、自分の考えをもてた後に学び合う方法をとると全員が話し合いに参加できた。

(2) 振り返りを書くことでわかったこと、わからなかったことを自覚できるようになった。次に学びたいことを書くことで次回の授業に対して意欲がわいた。

(3) 文章題、応用問題が苦手であった子が学び合いをすることで、問題の意図を読み取ることができるようになった。

(4) 学び合いをすることで他者と考えと、比べたりよいところを取り入れたりして自分の考えを深めていけるようになった。また、ワークシートを活用したりグループワークをしたりすることで考えを整理することができた。

今回のようなお互いに考えを交流し協働的に学び合うことは子どもの理解の深まりにつながり、汎用的な能力の育成をすることに有効であったと考える。

5. 参考文献

A小学校 2018 「平成30年度公開授業研究会研究紀要・指導案集」
伊藤幹哲 2015 「算数授業のユニバーサルデザイン」
田中博史・桂聖 2017 「「全員参加」授業のつくり方「10の原則」」